

エンパワーするNGO



京都 YWCA

9
2019

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

ガジュマルの樹 2019 ～ 韓国から小学生を迎えて ～ 多文化体験を通じ子どもたちが幸せに生きられる社会へ



京都 YWCA の活動のひとつに長期休暇中の小学生を対象とする「ガジュマルの樹」があります。子どもたちが多様性を尊重しあいながら、のびのびと成長できるようにと願い、毎回多文化・食をテーマに組み込んだプログラムを行っています。

今夏は 8 月 2 日に韓国から 30 名の小学生を迎え、野外クッキングを中心とする交流プログラムを行いました。

「ガジュマルの樹」は、参加者だけでなく、リーダーとして関わるユースが成長できる場所となることも目指しています。日韓 50 名の小学生のために、企画立案を担い、酷暑の中で奮闘してくれたリーダーの声を紹介いたします。

ユースリーダーとして参加して

私は昨年の夏 YWCA と出会い、それ以来外国ルーツの子どもたちの学習支援を中心にさまざまな活動に関わらせていただいています。大学では教育という観点から多様な文化的背景を持つ人々が平和に共生できる社会を築くための学びを深めています。その意味でも YWCA での貴重な経験は、私にとって意義深いものです。今年のガジュマルの樹プログラムには、企画の段階から関わらせていただきました。昨今の日韓の不安定な関係から開催に不安もありましたが、今だからこそ子ども同士草の根的交流が必要だという思いでプログラムの準備に必死に取り組みしました。

当日は言葉や文化の違いを超え楽しんでほしいと考え、野外料理をはじめ、スイカ割りや横断幕作りなど両国の子どもたちが協力することを重視した活動を実施しました。大規模なイベントを運営するのは初めての経験で、全体をまとめることの難しさを何度も感じましたが、多くの方のご協力のお

かげで無事にプログラムを終えることができました。

違いを乗り越えて

参加した子どもたちもボランティアも互いに言葉が伝わらなくて、もどかしい思いをしたこともあったでしょう。しかし、それも含めて大切な経験になったのではないかと思います。イベントの終わりごろに日本人の女の子が「言葉とか色々違うけど、ちゃんと友達になれたで」と笑顔で私に言ってくれた時、それまでの疲れが吹っ飛び、本当に嬉しい気持ちになりました。

両国の社会情勢がどうであっても、子どもたちが共に 1 日を過ごしたことに価値があったと感じます。1 日を通して子どもたちには、言葉や文化の違いによる壁を越える力があることを実感しました。「韓国」「日本」という大きな括りではなく、友達が住んでいるあの国だと思えるようになることで、それまでとは違う関係性が生まれるでしょう。私は、互いを思いやり幸せを願う人と人との繋がりが平和な世界への一歩になると信じています。このプログラムを通して子どもたちの心に平和の種が蒔かれたことを願っています。

最後に、今回の活動に関わり協力して下さった全ての方々に感謝申し上げます。私たち学生リーダーを信じて運営を任せて下さった YWCA のスタッフの皆さま本当にありがとうございました。これからも YWCA の活動を通して平和な社会の実現に微力ながら貢献していきたいと思っています。

(森のの子)



日韓の小学生が交流@京都 YWCA リトリートセンター

居場所って何？

こども・若者を支援する大人に求められるもの

6月29日、京都YWCAと関西セミナーハウスの共催で『こども・若者の「居場所」って何?』というテーマの下、映画『さとにきたらええやん』の上映と、その主人公とも言える荘保共子さん（認定NPO法人こどもの里理事長）をお迎えして、お話を聴きながら意見を述べ合うセミナーを開きました。

この映画は大阪・釜ヶ崎にある「こどもの里」を舞台に、その場で育っていくこどもと親たちを描いた作品です。京都YWCAの「カルーナ」のような自立援助ホームはもちろん、小規模住居型児童養育事業、緊急一時宿泊所なども併設され、同時に訪問サポート、アフターケア、障害児者居場所事業といった、おおよそありとあらゆるこどもの支援を行なっています。文字にするだけでも圧倒されてしましますが、映画の中で展開される人間模様の複雑さ、こどもたちの悲しみや痛み、同時にスタッフや周辺の人たちの大きな愛情までもが、ネガティブにもポジティブにも怒涛のように押し寄せてきて、自分の呑気な暮らし方を思い切り反省させられました。

この地域の人たちは、決して経済的に恵まれているわけではありません。四六時中明日の食費をどう捻

出すかを考えている人も少なくありません。でも、そういう人たちもほんとうはこどもとゆったり過ごし、穏やかな家族の時間を持ちたいはず。「こどもの里」はそんな人たちにゆとりと励ましを与える場であるように見えました。

入所しているこどもたちは、時には肉親に裏切られたりもしています。その子たちに、人間関係の基本である「信頼感」を持たせるのは簡単なことではないでしょう。「でめきん」こと荘保さんは根気よく、かつ断固たる態度でこどもたちに接し、受け入れ、その関係を築いていきます。愛情とは優しいだけではない、同時に何よりも力強くなければならないということが、見終わってからもしわじわと身体のすみずみに叩き込まれるような経験でした。

(大手 理絵)



荘保共子さん



「さとにきたらええやん」の上映

平和・環境活動委員会 カフェ・フリーデン

「令和」の疑問 ――「昭和」生まれ「平成」育ちからみた「令和」

7月13日、お茶を飲みながら自由に社会の問題について話し合う集い「カフェ・フリーデン」にて標記の題目にて、現代の天皇制についての問題を共有する機会を頂きました。

改元の際のニュース報道などによる天皇制に対する一元的な評価への疑問に端を発し、明仁天皇が象徴天皇として何を重視したのか、平成の時代の天皇の行為は何であったのかを辿ることにより、天皇制の問題に言及しました。被災地の視察など、明仁天皇の「仁」を重視する行動は、結果的に平成の天皇制への批判を閉ざすものとなりました。すなわち、天皇制という制度への批判・検討が、明仁という個人への評価に繋がってしまうといった倒錯的な雰囲気それがです。

参加して下さった方は年齢層も幅広く、天皇に対する心的な距離もそれぞれ違っていました。それ故に相対するような意見を交わせたように思います。そこで私が問われたことが、未だに忘れられません。その問いは、

皇族の数が少なくなっていく現代の在り方では、天皇制は放っておいても無くなっていくのではないかというもの、そしてもうひとつが天皇制について「否」の判断を下すなら、そこからどのような未来を思い描き実行するのかというものです。

前者については、現段階で詳しく応じる知識や見解を私は持ちませんが、天皇制が無くなるという未来は現状のままではやっては来ないと確信しています。この点については引き続き考えていきたいと思います。一方で、後者の質問。天皇制に否を唱えるならば、その先にどのような未来を描き、どのように行動していくのか。確かな答えはありませんが、少しずつでも考え、話し合い、書き続けていくことが私自身の役割であると、改めて引き受けることができました。それが後の世代のため、無力ながらも私ができるであろう仕事であると思います。

(片岡英子)

シリーズ 保育園ただいま準備中①



2020年度の春の開園を目指し「京都YWCA あじさい保育園」（仮称）の準備チームの活動が始まっています。このチームは保育園の運営にかかわる予定の職員で構成しています。

保育園は0歳児から5歳児までの定員60名で、園名の「あじさい」は、小さな色の違う花のような「がく」が寄り添いながら一つの大きな美しい花の形を成して咲く紫陽花を、「多様性」と「共生」のシンボルとして採用しました。

保育理念は、「一人ひとりが愛され、大切な存在として、命を大切にしつつ、共に生きることをめざす」というキリスト教精神を基礎にします。

保育方針としては、子どもの心とからだの成長を大切に、子どもたちが自らの力で意思決定することを認め、それを見守りながら、各々の子どもが自由に表現し、園生活を伸び伸びと楽しく過ごせるよう応援したいと考えています。

また京都YWCAの活動において大切にしている、国籍、言語、文化、宗教、障がいの有無などの違いを認め合い共生することの大切さも保育方針にかかげ、様々な人たちと

の関わりや交流は豊かな人間形成につながると考えています。

一斉指導をする保育は行わず、子どもたちの日々の生活を安全に見守り観察しながら、子どもの行動や姿から学びとり、子どもたちが自主的に遊べる環境を整えます。子どもたちが決定し選んだ遊びを展開しながら、互いが関わり合うことを喜び、思いやりや助け合いの心が芽生えるのを見守り、一個人として自信をもって生きていける人として成長できることを応援します。保育者が子どもたちから学ぶことも大切にします。

つねに保護者に寄り添うことを忘れず、保護者と保育者が共に子どもの成長を支え応援することを大切に、それを目指します。

準備チームの一人ひとりとは異なったバックグラウンドを持っていますが、今一つの目標に向かって心を合わせて計画を進めています。

ちなみに「あじさいの花の花言葉」には、青＝辛抱強い愛情、ピンク＝元気な女性、白＝寛容 があるそうです。

（河合由美子）

やります！チャリティコンサート！～情熱のタンゴ～

タンゴアンサンブル「ASTRORICO（アストロリコ）」とダンスのコンサートを2016年1月に開催して3年がたちました。再び、あの感動を味わいましょう！このコンサートの目的は、2023年に100周年を迎える京都YWCAの事業をご支援いただくことです。開催は、11月30日（土曜日）、13:00開演、場所は京都府立府民ホールアルティ、京都YWCAから烏丸通沿いに歩いて15分ほどです。

アストロリコはバンドネオンの名演奏家である門奈紀生

さんを中心に1991年東京で結成され、アルゼンチンではタンゴ専門チャンネルでその演奏が放映されています。海外での知名度は日



タンゴアンサンブル・アストロリコ

本より高く、バイオリン、ピアノ、コントラバスとの息の合った四重奏は、その技術の高さと感情表現の豊かさで、聴く人の心を揺さぶり深く染み入ってきます。親しみのある名曲から始めて耳にするタンゴまで、時を忘れることでしょう。

ダンスも前回に引き続き「亮&葉月（RYO & HAZUKI）」。タンゴダンス選手権で異例の審査員全員の満点を獲得し、アジアチャンピオンとなったおふたりです。国内外のフェスティバルやイベントに出演し、未来のタンゴダンサー育成にも力を注いでおられます。音楽は聴いたことがあるけれど、ダンスを目の前で見たことがない方は多いのではないのでしょうか。ぜひ生のダンスをご覧ください。しなやかな身体の動き、動と静のあいまった華麗な空間に目を奪われます。

ただ今前売り券、絶賛発売中です。詳しくは京都YWCAにお問合せいただくか、同封のチラシをご覧ください。11月30日、日常のあれこれを忘れるひとときをご一緒に過ごしましょう。

「京都 YWCA 未来応援募金」へのご協力をお願い

「未来応援募金」として2種類の募金を実施しています。ご協力をお願いいたします。

◎京都YWCA未来応援募金—保育園備品募金

保育園の備品等の購入をご支援いただく募金です。

◎京都YWCA未来応援募金—「れんが」プロジェクト（期間・数量限定）

W. M. ヴォーリズのレンガ塀から耐震のために取り除いたレンガを新しくできる門の周辺に敷く予定です。

1口：5,000円/レンガ1枚

募金期間：2020年2月まで

郵便振替 0180-9-1566 加入者名 公益財団法人京都YWCA

※通信欄に「未来応援募金保育園備品募金」あるいは「未来応援募金れんがプロジェクト」とご記入ください。

京都YWCAへのご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



レンガのお話



1930年代にはすでにあっと思われる京都YWCAの塀のレンガは、ホフマン窯という石炭燃料で焼いたものです。製法上焼きムラがありますが、そのラフな風合いが味わい深く、暖かみを感じさせ、YWCAを訪れる人々に親しまれてきました。当時の製法を今は使えないため、現在では希少なものとなっています。

行ってきました！

「日韓ユース・シニア交流プログラム @韓国」実施

参加者50名（ユース26、シニア14、スタッフ10）、ホームステイ受入12家庭
8/9～12の4日間、京都YWCAから若者とシニア18名（スタッフ含む）が韓国を訪問、日韓交流プログラムに参加しました。

韓国のみなさんの温かい受入のおかげで、盛りだくさんの充実したプログラムを実施することができました。



▲ホストファミリーと一緒に、参加者全員の愛を込めて

▶堤岩里3.1運動殉国記念碑の前で31秒間の黙祷



7・8月／理事会報告

- 園舎工事について町内への説明会2回目を実施（7/8）。
- 起工式実施（7/25）。外構を中心とした園舎以外の工事について協議。保育園の備品、遊具・教材、園庭、厨房についてチームを組んで検討を進めている。
- ホームページをリニューアルし、保育園情報を掲載している。
- 自立援助ホーム・カルーナ退所者に対する支援チーム体制開始。

ご協力ありがとうございました

2019年6月1日から7月31日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

上村愈巳子、井上依子、野田沙良
栁田中工務店

*平和・環境委員会

木戸さやか

*自立援助ホーム「カルーナ」

小寺敬子、篠田茜、辻川さとみ、
寺尾鈴子、西村由里、齋藤常子、
水野篤夫、岩崎明生、
イエニックふたみ、吉川文一、
木村葉子、大槻裕樹、兼井恵子、
大山悠子、竹之下雅代、
木戸さやか、奥村孝、宮武美知子、
若尾典子、伊部恭子、長瀬正子、
吉田紀子、中江和子、坪野えり子、
筒井奈都子、飯田融子、浅野猷一、
竹内二三
キリスト教矯風会
京都府更生保護女性連盟
国際ソロプチミスト京都・北山

各指定寄付

*未来応援募金

木戸さやか、筒井奈都子

*未来応援募金

—保育園備品募金

手島千景、上村愈巳子

*未来応援募金

—「れんが」プロジェクト

弘中奈都子、東前正美、
上村愈巳子、上村達郎、
坪野えり子、篠田茜、小林聡、
筒井奈都子
栁田中工務店

*世界総会派遣募金

坪野えり子

*多文化共生委員会

木戸さやか、張善花

*APTへ

神門佐千子、西村美那子、
安藤いづみ、木戸さやか

*賛助費

中村美智子、中村和雄、浅野久代、
半田淳子、
栁田中工務店



建築物環境整備 Environment Support

株式会社 ティ・エム・エス

ハウスクリーニングからビル・病院など多様なニーズお答えします



KYOTO YWCA No.552 2019年9月号（9月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都YWCA

定価：1部50円

発行：奇数月1日発行